

出前授業・模擬選挙	模擬議会・議員との交流	大学・若者グループ等との交流	【参考】 学校・民間団体が主体の取組
地方公共団体主体	他の機関(税務署)と連携	若者議会・こども議会	座談会等
小学生等	中学生	高校生	大学生・短大生・高専生
		特別支援学校生	若者層(10~20代)

②大府市（愛知県）（人口92,828人）※令和5年1月1日現在

大学と連携した選挙啓発・主権者教育の推進

■取組の概要

- ・大府市と至学館大学が協定を締結し、若年層へ向けた選挙啓発を実施。
- ・学生に向けて選管による出前授業と模擬選挙を実施。
- ・ゼミ活動の一環として、「若者の投票率をあげ隊」と称した学生たちによる街中での投票の呼びかけを実施。
- ・大学内に期日前投票所を設置し、学生が受付等投票所の運営に従事。
- ・学生の提案により、移動期日前投票所の取組も実施。



実施概要

実施年度	平成28年度から
対象者	主権者教育等を研究するゼミに所属する大学生（3、4年生）
参加者数	20名程度（令和5年度）
事業規模（予算）	約40万円（令和5年県知事選挙の期日前投票所として使用したバスのレンタル代、学生を会計年度任用職員として任用する際の人件費等）

■実施の経緯

<取組を開始するに至った経緯、当初の問題意識>

- ・平成28年2月に、大府市と至学館大学が「選挙啓発に関する協定」を締結したことを契機として、若年層への選挙啓発を開始。

■実施の体制

<庁内の実施体制>

- ・学生への出前授業や投票所の運営補助は専任の職員2名が対応。

■取組の効果・成果

- ・投票所の事務や啓発活動に従事する大学生の選挙への関心が向上した。
- ・令和5年県知事選挙では、大学図書館に設置した期日前投票所で64人、バスを利用した移動期日前投票所で76人の人が投票した。
- ・大学生が投票事務に従事したり啓発を行ったりする様子が、若年層にとって選挙を身近に感じるきっかけになっている。



<これから取組を始める団体へのメッセージ>

大学と良い関係が築けているおかげで、こうした取組を継続できています。お互いに尊重しあうことで、小さいながらも少しずつ取組を進めることが大切だと思います。

■取組のステップとポイント（選挙実施時）

① 事前準備

【実施2～6か月前】大学と調整し計画を決定

- ・年度始めにゼミ生と市長らによりこれまでの活動の振り返りと次回の活動内容について意見交換。

【実施の1～5か月前】大学での出前授業

- ・選挙制度や期日前投票所の運営事務について選管が説明。
- ・架空の候補者を立て、選挙公報を渡し、模擬選挙を実施。

【実施まで】会計年度任用職員として任用

- ・学生を会計年度任用職員として任用するための手続き。

【ポイント】

- ・出前授業は通常5～6月に行うが、選挙があればその時期に合わせて開催している。
- ・模擬選挙は投票所運営のリハーサルを兼ねており、学生には選挙事務従事者役と一般市民役の両方を体験してもらっている。
- ・あえて学生を会計年度任用職員として任用することにより、学生に責任感が芽生え、より一層真剣に取り組んでくれるようになるといった効果もある。

② 取組実施

- ・期日前投票期間は学生が駅前や繁華街で啓発活動を実施。

<当日の流れ> ※大学内の期日前投票所運営

- 1 図書館での受付、投票用紙の交付、投票立会人等の投票事務に学生が従事。
あわせて、会場付近で啓発活動を実施。
- 2 移動が困難な方を対象とした移動期日前投票所でも同様の取組を実施。

【ポイント】

- ・県知事選、参院選、衆院選で実施している。
- ・バス事業者の負担とならないよう、バス内部での投票所運営は大学と選挙管理委員会のみが携わった。
- ・啓発活動に使用するのぼりや旗は大学が作成している。



大学内に設置した期日前投票所



大学生の提案で実現した移動期日前投票所

③ 実施後

- ・様々なメディアで大学と連携した選挙啓発活動が紹介され、取組の周知が進んでいる。

【ポイント】

- ・至学館大学出身の著名人が取組に参加してくれたため、多くのメディアに取り上げられ、話題性が高まった。